

龍のレリーフ

128高地 「戦闘指揮所」

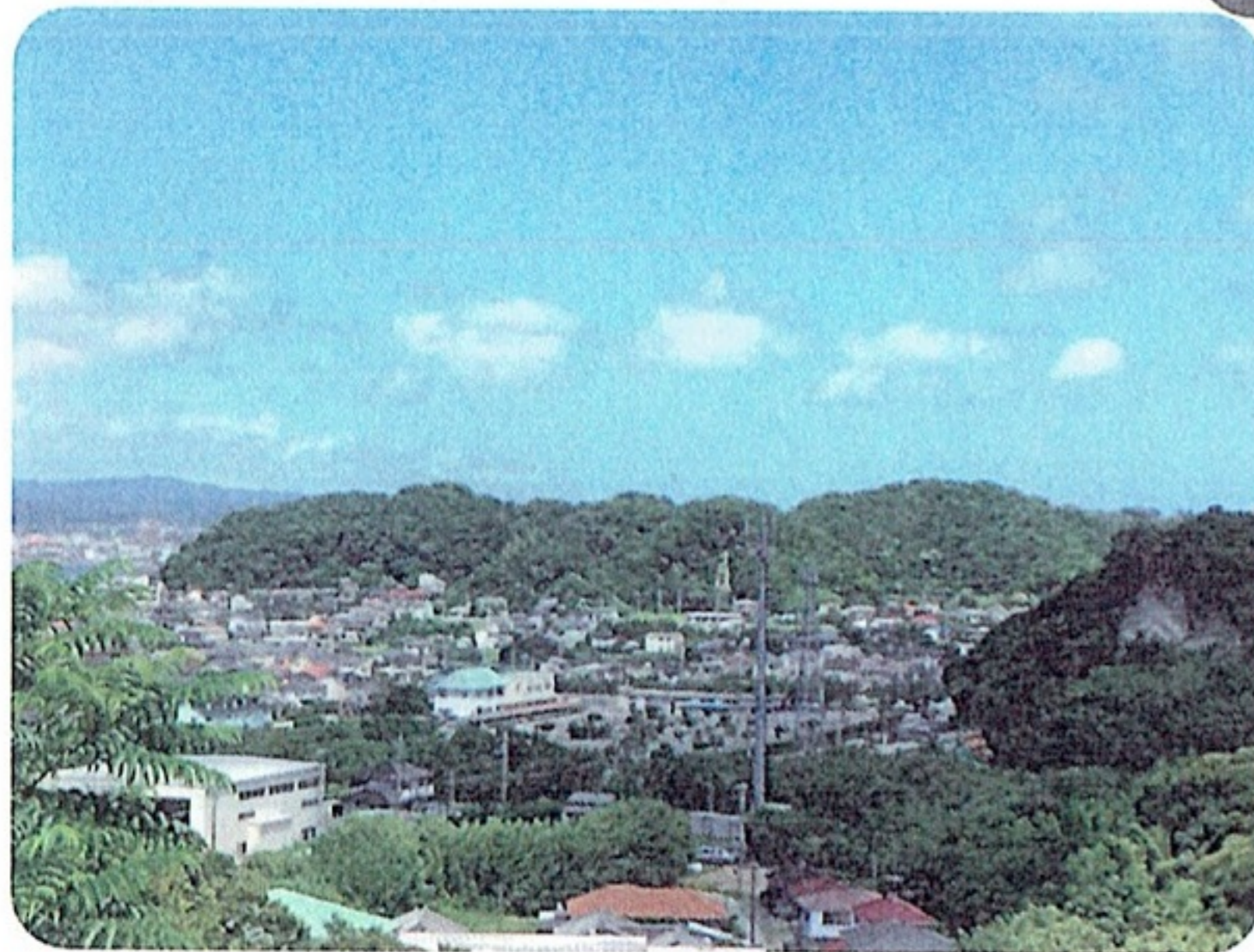
戦争末期、館山への敵上陸を阻止するための抵抗拠点として「洲ノ埼海軍航空隊」敷地内（現在は「かにた婦人の村」）に建設された地下壕。壕内には「戦闘指揮所」「作戦室」という額が残っており、「昭和19年12月竣工」「中島分隊」と刻字されている。さらに奥の小部屋の天井には、約3m四方に彫られた龍のレリーフがあり、全国でも珍しい貴重な地下壕。



「戦闘指揮所」とかかれた額



「作戦室」とかかれた額



この上空を戦闘機が飛んでいた

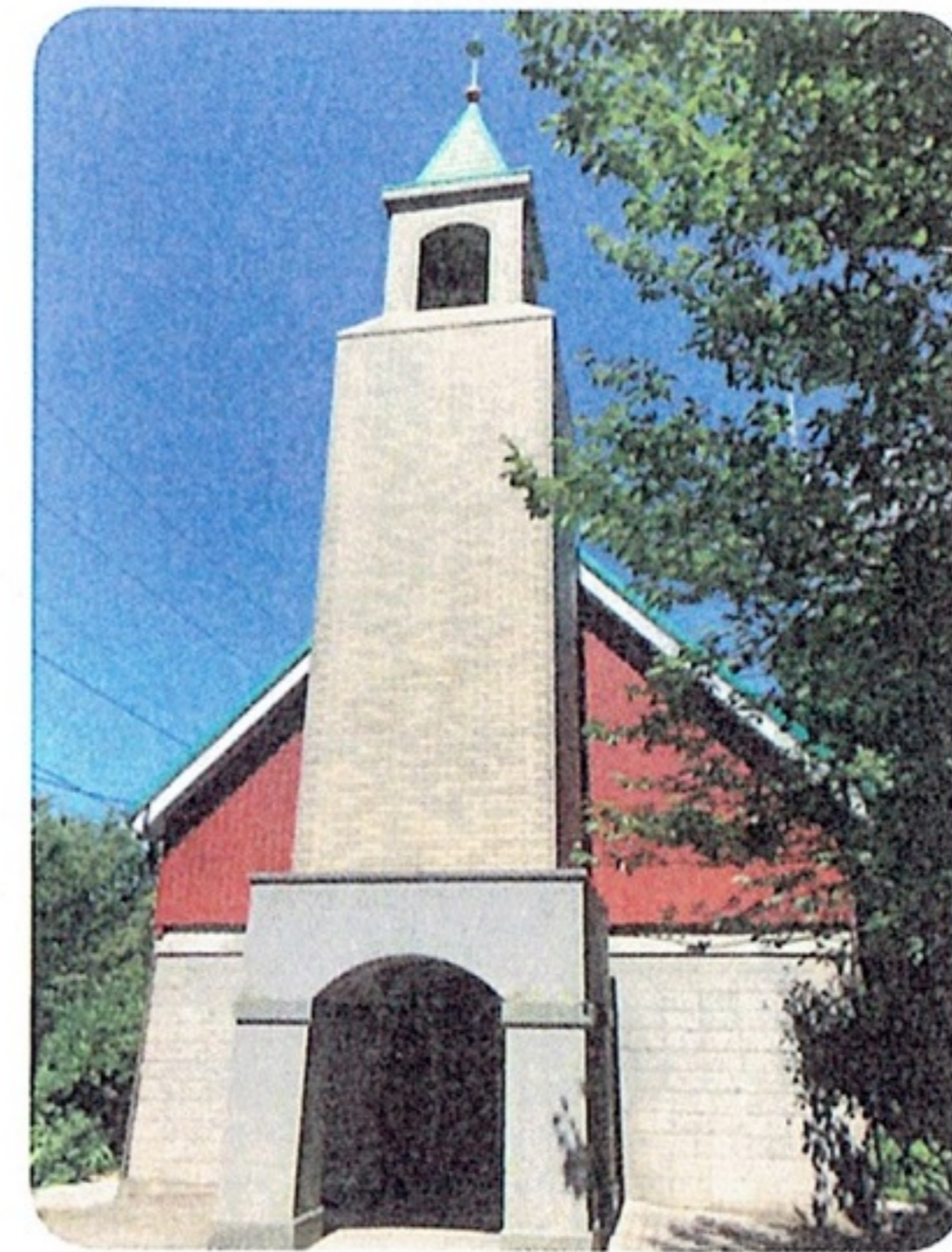


「128高地 戦闘指揮所」地下壕の入口

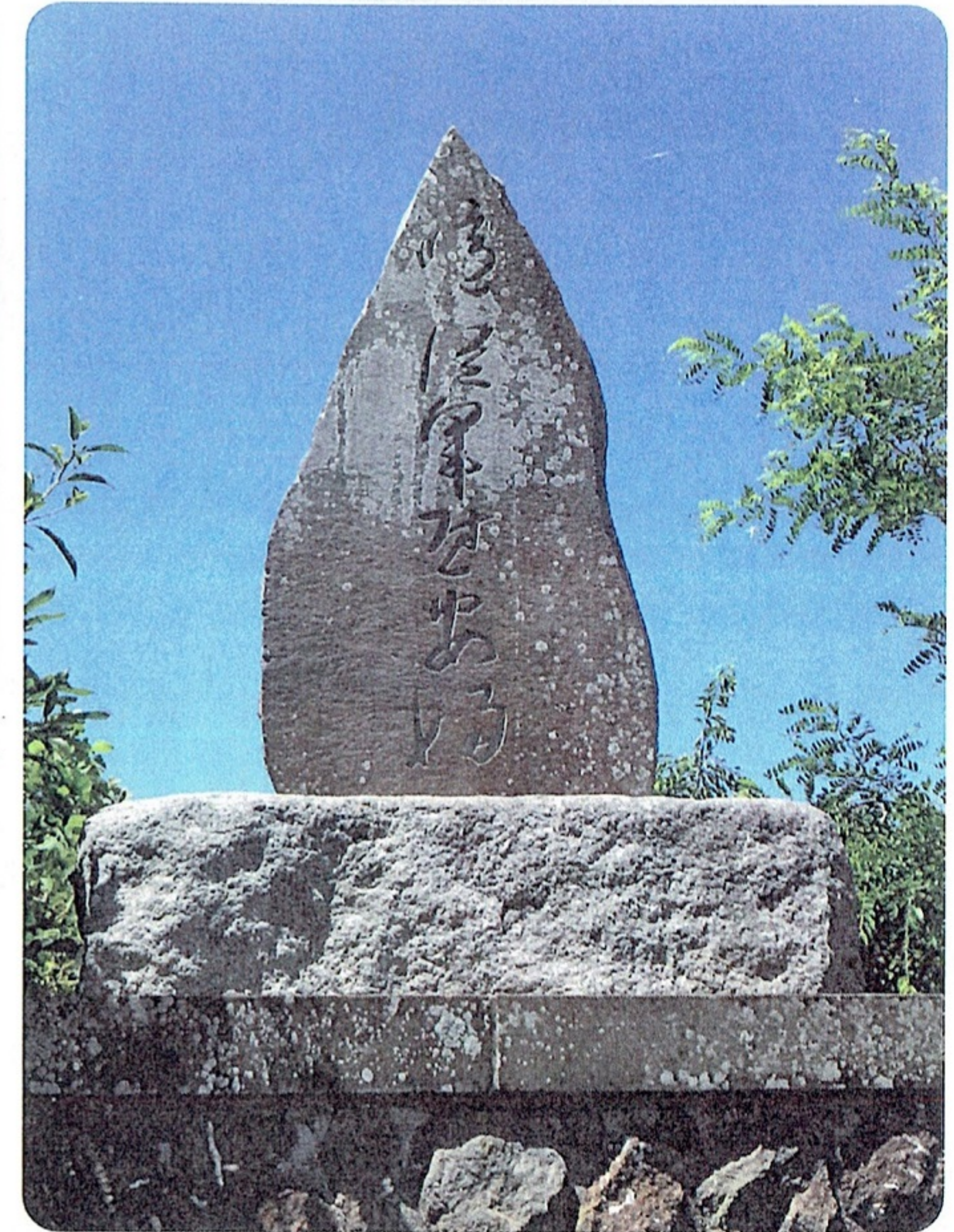
千葉県館山市とその周辺はかつて「安房国」と呼ばれ、東日本の玄関口として重要な港を擁し、多くの海洋民が交流と共生を繰り返してきた。一方で、交易の支配権をめぐる様々な権力の影響を受けており、その象徴として中世の城跡群や近代の戦争遺跡群も多く見られる。その一部を紹介する。

グラビア あ わ 安房の国

千葉県館山市



施設内にある教会。身寄りのない女性たちの遺骨が納骨されている。



「かにた婦人の村」と「噫 従軍慰安婦」石碑

1965年、深津文雄牧師は、社会から見捨てられた女性たちが一生安心して暮らせる婦人保護施設「かにた婦人の村」を設立した。1984年、一人の寮生が自ら従軍慰安婦体験を牧師に告白する。この告白を受けて、1985年、施設内にある小高い丘に1本のヒノキの柱を建てた。そして翌年そこには、「噫（ああ）従軍慰安婦」と刻まれた石碑が建立された。

「韓国挺身隊問題対策協議会」の代表ユン・ジョンオクさんが1988年8月にこの石碑を訪れた。